

介護保険では できないことがいっぱい

「ひとり暮らし高齢者の笑顔をつくる会」を立ち上げられたきっかけは？
昨年の冬、よく知るマンションで3カ月の間に4人の高齢者が孤独死したことにショックを受け、何とかできないものかと考えていました。その同じ時期に上海市で実施されているユニークな高齢化対策をテレビ番組で知りました。増加する高齢者の孤独死を防ぐために「年老いた親をひとり暮らしさせている子どもの定期的な帰省」や「独居高齢者の隣家住人に対する毎朝のノックによる生存確認」などを上海市の主導で正式な契約にするというもので、こんなやり方もあるんだという驚きを覚えると共に、日本でもこのような地域を見守る仕組みがつけられるんじゃないかと思っただけです。

「地域コミュニティの崩壊が問題となっていますが、それぞれが介護保険制度を利用すれば困り事は解決するのでは？」
介護保険制度は、高齢者が生きてい

思い込みでなく、気持ちを「聴く」ことが大切。 「どうしたいか」は、人によって違うから。

高齢者の孤独死が年々増えています。その背景には、かつてあたりまえのようにあった地域における助け合いの関係が希薄になったことがあると考えられています。「NPO法人ひとり暮らし高齢者の笑顔をつくる会」は、歳を重ねても安心して暮らせる地域コミュニティ再生を目指して、2012年4月より、助け合いの「仕組みづくり」をスタート。今回は、同会代表の野崎ジョン全也さんに、その取り組みについてうかがいました。

Human Interview

豊かな
高齢社会を
実現する
ために



く上で不可欠だと思えます。しかし、これにはたくさん制約があります。

例えば、一般的にヘルパーさんには、食事や着替えの介助や掃除や洗濯、買い物や頼むことができませんが、大掃除や模様替えなど「日常的ではないもの」にお手伝いは頼めません。そのほかにも、長時間にわたる通院の付き添いや入院中の手伝い、趣味活動や旅行への同行、草むしりやペットの世話なども、制度が適用されないのです。介護に必要な高齢者に笑顔を取り戻してもらうには、こうした生活を快適にするサービスは欠かせません。企業のサービスを利用する手もありますが1時間3000〜5000円が相場では、年金暮らしの高齢者には負担が大きいし、払えない人の場合は、利用をあらかじめ得ません。

頼む方も頼まれる方も 負担にならないしくみ

「どんな活動をされているのですか？」
介護保険制度の適用外や給付だけでは不足する「どこに頼めばよいかかわからない」ようなサポートを低価格で提

大変ですよね。当会は、付き添い可能な場合、夜通しの付き添いにも常識を覆すような低価格で対応します。

「なぜ低価格で提供できるのですか？」

スタッフには個人事業主としてサポートに入ってもらっています。当会の収入は彼らからの会費であり、営利法人のような利益の上乗せは必要ありません。このため、低価格でのサポートが実現でき、スタッフへも利用者の方から頂いた料金をそのまま支払えるのです。

ちょっとしたことでも、 喜んでもらえることがある

「価格以外で喜んで頂けたことは？」
通院の帰りに「桜をみたい」とおっしゃったら公園へ、「昔住んでいた所に寄ってみたい」とおっしゃったらそちらへお連れします。たとえ最初の予定と違って「手数がかかって」も「あそここのタバコ屋さんは昔のままでよかった」などと喜んでいただければ嬉しく思います。ある時は「遺言書を残したい」とおっしゃる難聴の男性を弁護士会館にお連れして、弁護士さんの説明を聞き取ってお伝えし、安心してもらいました。またある時は、ご家族が大切な高齢の女性をスタッフが付きっきりで見守り、ご家族の方に「心強かった」と感謝されたこともあります。

「介護という観点にとらわれない幅広いサポートを大切にされているんですね。」

介護保険制度は、国の制度である以上、画一的なサービスしか提供できま



供しています。わかりやすくいえば、ヘルパーさんに頼める買い物は日用品に限られますが、私たちには何の制限もありませんから、ビールなどの嗜好品でもペットの餌でも何でもお届けできるということです。以前なら、お隣さんに頼んで買ってもらうだけですが、今の時代は気を遣いますよね。でも500円や1000円のやりとりなら、サポートを提供する方も受ける方もそんなに負担にならないでしょう。」

歩行時の転倒が心配される方が入院された場合、トイレに行きたくなってナースコールを押しても、夜間は看護師の配置が少なく対応が遅くなってしまふこともあります。待ちきれずに、ひとりでトイレに行くと転倒されたら

せん。それでは、高齢者の人権が守れないのではないかと私は感じていました。高齢者と一口にいっても、それぞれ事情も、価値観も違いますから。

わずらわしさも含めて 楽しめる地域コミュニティの 形を全国に

「利用者の方々とのかわり方で、気を付けておられることは？」

何を望んでおられるか、こちらが決めつけるのではなく、まず「聴く」ことです。利用者の方よりずっと若いスタッフたちが、その思いを100%理解することは難しいかもしれません。しかし、私たちは介護保険制度の周辺において、一人ひとりの気持ちに寄り添い、心の通ったサポートを提供していきたいと考えています。

「これからどんな風に発展させていきたいですか？」

私の考えに賛同するその地域の人たちをスタッフとして迎え、地域で地域を支える形をつくって行きたいと考えます。将来的には、全国の都市部にある当たり前のインフラとして広げて行くのが目標です。助けてもらったら、お返しをする。そしてまた助ける。自分のできる範囲で。それは昔の近所づきあいにも似た新しい「地域のコミュニティ」ですね。今の時代からすれば、少しわずらわしい面もありますが、そのわずらわしさも含めて楽しめる、あったかい地域のコミュニティを創造できれば理想的ですね。

野崎 ジョン全也 さん

「NPO法人ひとり暮らし高齢者の笑顔をつくる会」理事長。大手企業勤務経験を経て2009年より経営コンサルタントとして独立。会社員時代を含め、学校・婚礼・介護・雀荘など数多くの事業の立ち上げ・運営・マネジメントに携わる。現在は、同会を通じ新しいコミュニティ創造の全国展開を目指して奮闘中。信念は「スタッフと一緒に一喜一憂できる仲間であり続ける」こと。

